

教育研修会抄録

唾石症への炭酸ガスレーザー応用

研修・安全講習委員会

委員 大浦教一

唾石は唾液腺または導管内において剥離上皮細胞、異物、細菌などの周囲に無機質が沈着することによって生じる石灰化結石である。唾石は、大唾液腺と小唾液腺どちらにも生じるが大唾液腺、特に顎下腺由来に発生する頻度が高く 80～90%を占めている。唾石の治療は摘出術となる。

術式として、近年 5mm 程度までの唾石を全身麻酔下で導管内に内視鏡を挿入し摘出する方法が報告されている。この方法は歯科一般外来では応用が難しい。歯科における通法の唾石の摘出術はメスを用いて行うため切開部分が大きくなったり、出血により術野の明示が難しいことが多い。

今回、顎下腺由来のワルトン管開口部近くにできた小さな唾石、ワルトン管浅部にできた大きな唾石の唾石症 2 症例と下唇小唾液腺における唾石症が疑われた 1 症例に対し炭酸ガスレーザーを応用し摘出した 3 症例を報告する。

顎下腺由来の 2 症例は術後ともに顎下腺の腫脹はなく排唾を確認した、その後経過は良好で唾石の再発は認められない。下唇症例も経過良好である。

唾石摘出術に炭酸ガスレーザーを応用することにより出血がほとんどなく、術中の出血が抑制できることで術野を明示でき治療時間の短縮につながった。また、炭酸ガスレーザーによる創傷治癒促進、組織再生効果が報告されている。本症例においても炭酸ガスレーザーを応用することで術後疼痛も抑制でき、治癒も促進することができたと考えられる。炭酸ガスレーザーの唾石摘出術への応用は有用な治療法であることが示唆された。

略 歴

1982 年 岐阜歯科大学（朝日大学）卒業
1984 年 鹿児島大学大学院歯学研究科入学
1988 年 鹿児島大学大学院歯学研究科修了 歯学博士
1988 年 鹿児島県立大島病院歯科口腔外科部長
1989 年 同 退職
鹿児島市にて開業 現在に至る

(社)日本レーザー歯学会 専門医 指導医 顧問
日本歯科用レーザー学会 認定医 指導医 常務理事
国際レーザー歯学会 会 員
(社)日本先進インプラント医療学会 インプラント専門医 指導医 理事
(公)日本口腔外科学会 会 員